

第30号

発行日:2017年6月1日
 発行:鹿児島純心女子短期大学
 同窓会ゆかり会
 〒890-8525 鹿児島市唐湊4-22-1
 TEL・FAX (099)255-7655
 E-mail jyukarikai@ybb.ne.jp
 U R L http://www.geocities.jp/jyukarikai
 編集:ゆかり会事務局

会報 ゆかり



ちぎり絵

川上カズヨ先生による
 和紙を使って描かれた桜島の風景
 手前の風景は本学のイメージ
 [2017.2.20.現在]



名誉会長
 平山 久美子 (学長)



「明日のことまで思い悩むな。 その日の苦勞は、その日だけで十分である」

皆さんの助けになるような言葉を贈れないかと思った時、1年のアセンブリー時に学園聖堂で一緒に読んだことのある聖書の一節が浮かびました。それは次の言葉です。「明日のことまで思い悩むな。その日の苦勞は、その日だけで十分である」(マタイ6章34節)。

この言葉が述べられた箇所は、次のように始まります。「自分の命のことで何を食べようか何を飲もうかと、また自分の体のことで何を着ようかと思ひ悩むな。命は食べ物よりも大切であり、体は衣服よりも大切ではないか。空の鳥をよく見なさい。種も蒔かず、刈り入れもせず、倉に納めもしない。だが、あなたがたの天の父は鳥を養ってくださる。あなたがたは鳥よりも価値あるものではないか。…」

私たちはついつい、毎日の仕事におわれ、思い煩ってしまいがちです。体調不良や失敗が重なってしまったら、なおさら視線は下へ下へと向かってしまいます。しかし、イエス様は、そんな私たちの肩をたたき、視線を上

へと向かわせ、次のように言われるのではないのでしょうか。「あなたは、天におられる私たちの父(神)の大事な子、父の愛がいつもあなたと共にありますよ。」と。

私たちが生活しているこの自然界も、共に生きている人々も、神が愛によって創造してくださったもの。教皇フランシスコは、この宇宙、この地球を「皆がともに暮らす家」とその回廊『ラウダート・シ』で表現されました。この家の中で、すべてのもの、動物も植物も動物も人間も、それぞれの役割を果たしながら、それぞれの使命をまっとうしているのでしょうか。

日々の生活に疲れ切った時、時々、天を見上げ、「明日のことまで思い悩むな。その日の苦勞は、その日だけで十分である」の言葉を思い出し、深呼吸してみたいかでしょうか。

明日の卒業式後、社会人として第一歩を踏みしめる皆さんにこの聖書の言葉をお贈りして、私の挨拶とさせていただきます。

皆さん、こんにちは。

いよいよ明日、皆さんの卒業式が挙行されます。

そして本日は、卒業式に先立ち、本学を母校とする方々の同窓会である「ゆかり会」への入会式が行われます。毎年、このようにゆかり会の役員の方々が、ご多用の折にもかかわらず、皆さんのために同窓会入会式を開催していただきますことを、私は大変有難く感謝申し上げます。

さて、明日の卒業式を終え、社会人として、新しい環境で仕事や勉学を始める皆さんはどういう状況になるのか推察しています。心境としては、期待と不安、緊張の連続ではないかと思ったりしています。もちろんそれは私の老婆心的な心配であり、実際は喜びやワクワク感のほうが大きいかもしれません。しかし、もしも皆さんが落ち込みそうになった時、